
世界で一番幸せ

紘

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界で一番幸せ

【Nコード】

N7434J

【作者名】

紘

【あらすじ】

大学の頃お世話になっていた先輩の結婚式に呼ばれることになった主人公。

しかし、先輩の結婚相手は大学の頃に付き合っていたあの人ではなくて・・・

「結婚式」と「別れ」が題材の少し切ないSS。

祝福されている。

白いウエディングドレスに身を包まれた花嫁を大勢の来客が囲んでいた。

世界で一番幸せ

大学の頃お世話になっていた先輩から結婚式の招待状が届いた。

私が姉のように慕っていた先輩で、

先輩も私のことを妹のように可愛がっていてくれた。

ときどき連絡を取り合っていたものの、

結婚する話は招待状が来て初めて知って、それでも純粹に先輩の幸せに嬉しかった。

容姿も性格もとてもきれいな先輩で、届いた招待状にはもちろん出席に丸をつけて返信した。

それからは自分の結婚式でもないのに落ち着かなくて、当日着ていくパーティードレスを友達と見に行ったりしながら、先輩の話に花を咲かせた。

（そういえば）

式の招待状の新郎の名前は大学時代に先輩と付き合っていた人ではなかった。

そのことろ友人に言われて初めて気が付く。

（あの頃、とても幸せそうに微笑んでいた先輩なのに）

「お似合いのカップルだったのにねー」

（その幸せな表情を作っているのは）

友達の話がBGMのように、

「まあ、社会に出るといろいろ変わっていくし・・・」

まるで意味のないもののように、右から左へと流れていく。

（あの頃すくそばにいた人ではなくなっている・・・）

「会える時間も減るしねー」

あの人も私のことを妹のように可愛がっていてくれて、

二人が一緒にいることは当たり前のことだったのに――

幻想

純白のウェディングドレスを着た先輩の隣にいたのは、やはりあの
人ではなくて、

私の見知らぬ人だった。

結婚式は問題なく進み、

教会の扉から出てきた二人を大勢の来客の祝福と紙吹雪が迎える。

（彼女は）

あの頃の幸せな表情と変わらない笑顔を顔いっぱいにつかべていた。

隣に立っているのはあの人ではないけれど、先輩の幸せそうな顔を見ると、

（それでも二人に抱いていた憧れは止まないけれど）

先輩の幸せを純粋な気持ちで祝福できる。

——瞬間、

来客の人ごみの中に、懐かしい人を見たような気がした。

「おめでとつございます」

「ありがとう」と笑った彼女はとてもきれいで。

「幸せですか？」

思わず聞いた言葉にハツとする。

彼女は一瞬驚いた視線を私に向けてきたけれど、すぐに満面の笑みで返事を返す。

「ええ。」

世界で、一番幸せよ」

帰ってきた彼女の返事に、

こらえていた涙が

堰を切ったように溢れだした。

「お幸せに」と。

伝えることしかできなかった。

『世界で一番幸せ』

それが彼女の選んだ答えだった。

(2
0
1
0
·
0
2
·
0
7
)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7434j/>

世界で一番幸せ

2010年12月31日06時58分発行